



## 先月の山行

- ☆ 3月 9日(土) ブナが岳
- ☆ 24日(日)

## 4月の予定

- ★ 11日(日) 総会
- ☆ 14日(日) 金毘羅山京都大原
- CL 宮本重信
- ☆ 28日(日) 去年は鎌ヶ岳(三重県)

CL

## 5月の予定

- ★ 9日(木) 例会
- ☆ 12日(日) 去年は鷲走ヶ山
- CL
- ◆ 18日(土) ハイキング講座
- ☆ 26日(日) 去年は鳴谷山

☆ CL

年会費6000円

遭難対策基金1000円会計までお願いします。

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

を検索して下さい。

## 山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

## [山行報告]

ぶな 武奈ヶ岳 ~ つるべ 釣瓶岳

日時: 2019年3月9日(土) 晴れ



天気予報では山行予定の日曜日は雨マークである。それで急遽、予定を土曜日に変更し、参加者を再募集するが、参加者は私を含めわずか3名だった。

先日銀杏峰で会った滋賀県のヤマッパーさんと立ち話した時、比良山系で冬の武奈ヶ岳北稜コースが素晴らしいとのことだった。それで今回の山行計画に組み入れた。当然この北稜コースは初めてのコース、入念に調べなければいけない。初めて行く場合、情報がないと登山口を探すのに四苦八苦するし、迷ったりロスタイムが出たりする。

ところで、現在ネットでストリートビューという便利なアプリがある。前日に朽木栃生にある登山口をストリートビューで調べておいた。これがバッチグー。栃生登山口に自転車を置き、葛川坊村の駐車場に向かった。

さすがに人気の山である。駐車場は既に10台近く停まっていて、次々に車が入ってくる。

私達もすぐに身支度を整えてリュックを背負う。個人的に8年ぶりの武奈ヶ岳、記憶と地図を頼りに登山口を見つける。

いきなりの杉林の九十九折りの急登で、息が上がり汗をかく。地面は氷点下なのか凍っていて滑る。休憩している人がアイゼンを装着しているが、私達はツボ足で行くことにする。標高が800m付近になると昨夜降った新雪が出てくる。今日は天気が良いので太陽が出てくると寒さが一転し暖かくなり、雪も融け出すだろう。

御殿山手前で武奈ヶ岳の全容が見えてきた。雪道をいったん下ってワサビ峠から再び急登である。先行者のトレースがあり、その跡をたどれば頂上までいける安心感がある。武奈ヶ岳の稜線上に来ると、琵琶湖が水墨画のように見えて感激する。頂上の立派な標柱に着くと何と白山が見えてまたびっくりする。でも風が強く、長居はできない。頂上から少し下ったところでワカンを装着する。

いよいよ今日のメインの北稜コースである。一人分のワカンのトレースがずっと続いているのでそれを使わせてもらう。白山と琵琶湖を前方に見ながらの贅沢な尾根歩きである。あまり端の方に行くとも雪庇がある。斜面のシュカブラがきれいである。青空に映えてジェット機の煙が白く尾を引いている。アップダウンを繰り返し、釣瓶岳の山頂に到着する。ここの看板に「富士山を捉えた山」と書いてある。もちろん今日は私の目には富士山は見えないが。

イワクタ峠に着いて、アイゼンを外す。これから先は栃生へ下りるだけで、道ははっきりしないが、ピンクリボンを頼りに何とかかなりそうだ。しかし杉林の急な下りを転びそうになりながら進む。一度登山道を見つけて行くが、二手に登山道が分かれている。一方は下る道、もう一方は上る道である。下る道は沢に向かっていてピンクリボンがあるようだ。私達は下る道を選択した。ところがこれが間違いだった。

最初は沢を渡る丸太が掛けてあったが、倒木があったり、沢も渡れないところが出てきたりと大変な目に遭う。そのうちピンクリボンを見失う。

何とか巡視路の道が出てきてコメカイ峠出合の標識がある分岐に出てホッとす。さらに行くとも林道に出て工事関係者の車が5台ほど停まっている。工事中の立派なえん堤を過ぎ、国道367号線沿いの登山口に着く。

ここから坊村の駐車場まで30分自転車をこいで戻った。駐車場はまだ20台ほど車が停まっていた。車に自転車を載せ、2人の待っている登山口に急いだ。

## 越前甲

日時：2019年2月24日（日）晴れ



越前甲には過去何回か登っているが、冬は一度もない。今回、「冬の越前甲」という言葉に釣られてワクワクする。「冬の越前甲」と連想すると、雪崩、急登、ピバークが――。とてもとても と思っていた。

昨年開通した国道416号線。どこまでスタッドレスタイヤで行けるのか、それも心配だ。でも道路は凍結なく、横倉の「あまごの宿」を過ぎ、それなりに行くとも通行止めのバリケードが。そこで、車を駐車スペースに止め、アイゼン装着し、出発---と思いきや、直したはずのアイゼンがまたしても分解。仕方なく予備の6本アイゼンで出発した。

凍った国道(?)を進み、ショートカットしながら夏の登山道手前の杉林から入って行く。それなりにトレースをたどると急登になる。大日峠とはちょっと違うと感じながら振り向くと、白山がドーンとある。その横に双耳峰の経ヶ岳。荒島、銀杏峰～部子山は霞んでいる。前方を見ると、人が蟻の如く点になって動いている。稜線に出たのだ。尾根に出ると雪原の広がりを感じる。浄法寺～丈競の見ながらの贅沢な上り。青空と雪、ブルーホワイトの2色の空間、絵画の世界だ。頂上に着くと先行のグループが記念撮影している。どこのグループか聞いてみる。ネットのヤマレコで知り合った滋賀、福井、石川のグループとのこと。今は所属の山岳団体でなくても山があれば友達感覚で登れる時代なのかと思う。頂上は風が強く、とてもいられない。少し下りたところで休憩する。そこで一緒にいた人と話が弾み、よくよく聞くとフォローしているヤマッパーさんだった。下りは雪が緩んでガブリ、ワカンを持ってきたら良かったと思った。



### 「編集後記」

#### 山頂笑顔

歳を重ねるにつれ普段は笑顔がなくなっていく私達・・・山登りをして山頂写真だけでも満点の笑顔で記念撮影をしてくださいね。この会報誌は皆様の元気な顔もお届けしています。

日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、労山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。

登山時報投稿写真係 <mailto:tozanjiho@jwaf.jp>